

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-111	高等学校	地理歴史科	歴史総合	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
81 山川	歴総 081-901	歴史総合 近代から現代へ 改訂版		

1. 編修の基本方針

教育基本法第2条第1号「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。」に留意した点

- ＊現在につながる近代・現代の歴史を、世界と日本の歩みを関連づけながら叙述することによって、「幅広い知識と教養を身に付ける」ことができるよう留意した。
- ＊各節の冒頭に導入の「問い」を設けることによって各節の学習の目的を明確にした。また、本文などを読む際の着眼点の手がかりとなるような「Q（問い）」を所々に設けて考察を促し、これをもとに対話的な活動をおこなうことで、「真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う」ことができるように配慮した。
- ＊生徒の興味・関心を引き出し、本文の理解を深めることができるような地図やグラフ・文字資料等を掲載し、資料から情報を読みとき、考察する活動ができるよう留意した。
- ＊本文の理解を助けるため注を付した。また、基本的な知識・教養として重要と思われる概念や用語などについても注で解説した。

教育基本法第2条第2号「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。」に留意した点

- ＊特に「近代化への問い」「国際秩序の変化や大衆化への問い」「グローバル化への問い」では、生徒が学習に主体的に取り組めるよう、取り上げる資料を選択した。生徒自身が資料に基づいて自分なりに考察し、問いを表現することで、「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う」ことができるよう留意した。
- ＊「近代化」「国際秩序の変化や大衆化」「グローバル化」といった変化と、職業や生活などの社会状況との関連について、多角的に叙述し、「職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと」ができるよう留意した。

教育基本法第2条第3号「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。」に留意した点

＊国際連盟や国際連合の機能とその課題、冷戦や地域紛争、核開発、安全保障の問題などの叙述を通して、「正義と責任」について考察できるよう留意した。また、女性運動や労働運動、差別や格差の問題とそれへの取組などについての叙述を通して、「男女の平等、自他の敬愛と協力」について考察できるよう留意した。

＊第Ⅰ・Ⅱ部末の「近代化と現代的な諸課題」「国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題」、第Ⅲ部末の「現代的な諸課題の形成と展望」のページでは、歴史的な経緯を踏まえて現代的な課題を理解し、持続可能な社会の実現に向けて主体的に考える活動を通して、「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」ができるよう留意した。

教育基本法第2条第4号「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。」に留意した点

＊たび重なる戦争や、経済の発展に伴う環境問題、また、そうした問題に対する取組についての叙述から、「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと」ができるよう留意した。

教育基本法第2条第5号「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」に留意した点

＊世界と日本の歴史を関連づけながら、地域の違いやその背景について気づかせるように配慮し、また、現代の世界及び日本における課題を取り上げ、考察を促すことで、「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」ができるよう留意した。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
歴史の扉1 歴史と私たち 日本と洋菓子	＊「歴史の扉1」では、生活や身近な諸事象と日本や世界の歴史との関連性に気づくように、洋菓子について記述した（第1号）	p. 12～13
歴史の扉2 歴史の特質と資料 台湾における砂糖の生産	＊「歴史の扉2」では、主体的な学習を促すため、歴史を考察するための資料の解釈について多角的に例示した（第3号）。	p. 14～16
第Ⅰ部 近代化と私たち	＊全体として、公正な立場から客観的に叙述した（第3号）。 ＊日本と世界の歴史が、相互に関連しながら展開してきたことを、近代化の視点から多角的にバランスよく叙述した（第1号）。	(p. 17～98)
<近代化への問い> 1 交通と貿易／2 産業と人口／3 権利意識と政治参加や国民の義務／4 学校教育／5 労働と家族／6 移民	＊近代化への問いでは、みずから考察し、問いを表現するための資料を掲載した（第2号）。	p. 18～23

第1章 結びつく世界 1 アジア諸地域の繁栄と日本 2 ヨーロッパ人の海外進出とヨーロッパにおける主権国家体制の形成 第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 1 アメリカ独立革命とフランス革命 2 ヨーロッパ経済の動向と産業革命 3 19世紀前半のヨーロッパ 4 19世紀後半のヨーロッパ 5 19世紀のアメリカ大陸 6 西アジアの変容と南アジア・東南アジアの植民地化 7 中国の開港と日本の開国 第3章 明治維新と日本の立憲体制 1 明治維新と諸改革 2 明治初期の対外関係 3 自由民権運動と立憲体制 第4章 帝国主義の展開とアジア 1 条約改正と日清戦争 2 日本の産業革命と教育の普及 3 帝国主義と列強の展開 4 世界分割と列強の対立 5 日露戦争とその影響 <近代化と現代的な諸課題> 自由・制限／開発・保全	*世界各地の特色と「世界の一体化」についての叙述のなかで、伝統と文化や、国際的な交流について関心が高まるように配慮した(第5号)。 *産業革命とあわせて、公害の問題が生じたことを叙述し、環境保全への関心が高まるように配慮した(第4号)。 *産業革命の進展のなかで経済的、軍事的格差が生じたこと、植民地とされた地域があったことを叙述し、他国を尊重することや国際平和について関心が高まるように配慮した(第5号)。 *立憲体制の成立に関する叙述のなかで、権利や義務、平等についても関心が高まるように配慮した(第3号)。 *帝国主義の展開や、たびたびおこった戦争に関する叙述のなかで、生命を尊ぶ態度を養えるように配慮した(第4号)。 *近代化と現代的な諸課題では、自由・制限、開発・保全を取り上げた(第2・4号)。	p. 24～35 p. 36～65 p. 66～77 p. 78～96 p. 97～98
第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち <国際秩序の変化や大衆化への問い> 1 国際関係の緊密化／2 アメリカ合衆国とソ連の台頭／3 植民地の独立／4	*全体として、公正な立場から客観的に叙述した(第3号)。 *日本と世界の歴史が、相互に関連しながら展開してきたことを、国際秩序の変化や大衆化の視点から多角的にバランスよく叙述した(第1号)。 *2度の世界大戦に関する叙述のなかで、生命を尊ぶ態度を養えるように配慮した(第4号)。 *国際秩序の変化や大衆化への問いでは、みずから考察し、問いを表現するための資料を掲載した(第2号)。	(p. 99～170) p. 100～104

大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化／5 生活様式の変化 第5章 第一次世界大戦と大衆社会 1 第一次世界大戦とロシア革命 2 国際平和と安全保障 3 アジア・アフリカ地域の民族運動 4 大衆消費社会と市民生活の変容 5 社会・労働運動の進展と大衆の政治参加 第6章 経済危機と第二次世界大戦 1 世界恐慌の発生と各国の対応 2 ファシズムの台頭 3 日本の恐慌と満洲事变 4 日中戦争と国内外の動き 5 第二次世界大戦と太平洋戦争 第7章 戦後の国際秩序と日本の改革 1 新たな国際秩序と冷戦の始まり 2 アジア諸地域の独立 3 占領下の日本と民主化 4 占領政策の転換と日本の独立 <国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題> 対立・協調／平等・格差／統合・分化	* 第一次世界大戦後の国際関係の叙述のなかで、国際社会の平和について関心が高まるように配慮した（第5号）。 * 大衆消費社会の叙述のなかで、当時の文化について関心が高まるように配慮した（第5号）。 * 第一次世界大戦後の社会・労働運動の叙述のなかで、平等について関心が高まるように配慮した（第3号） * 第二次世界大戦前後の叙述のなかで、生命を尊ぶ態度を養えるように配慮した（第4号）。 * 戦後の国際秩序や日本の改革の叙述のなかで、国際社会の平和について、関心が高まるように配慮した（第5号） * 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題では、対立・協調、平等・格差、統合・分化を取り上げた（第3号）。	p. 105～131 p. 132～151 p. 152～167 p. 168～170
第Ⅲ部 グローバル化と私たち <グローバル化への問い> 1 冷戦と国際関係／2 人と資本の移動／3 高度情報通信／4 食料と人口／5 資源・エネルギーと地球環境／6 感染症／7 多様な人々の共存 第8章 冷戦と世界経済 1 集団防衛体制と核開発 2 米ソ両大国と平和共存 3 西ヨーロッパの経済復興	* 全体として、公正な立場から客観的に叙述した（第3号）。 * 日本と世界の歴史が、相互に関連しながら展開してきたことを、グローバル化の視点から多角的にバランスよく叙述した（第1号）。 * グローバル化への問いでは、みずから考察し、問いを表現するための資料を掲載した（第2号）。 * 経済成長とともに、公害の問題も取り上げ、生命の尊さや環境保全の重要性にも配慮した叙述を心掛けた（第4号）。 * 冷戦の記述のなかで、国際平和について関	(p. 171～236) p. 172～178 p. 179～213

4 第三世界の連携と試練 5 55 年体制の成立 6 日本の高度経済成長 7 核戦争の恐怖から軍縮へ 8 冷戦構造のゆらぎ 9 世界経済の転換 10 アジア諸地域の経済発展と市場開放	心が高まるように配慮した（第5号）。	
第9章 グローバル化する世界 1 冷戦の終結と国際情勢 2 ソ連の崩壊と経済のグローバル化 3 開発途上国の民主化と独裁政権の動揺 4 地域紛争の激化 5 国際社会のなかの日本	*国際社会が変化するなかで、日本を含む世界の国々が相互に関係しつつ、どのように歩んできたのかについて理解が深まるように配慮した（第5号）。	p. 214～229
第10章 現代の課題 1 現代世界の諸課題 2 現代日本の諸課題	*現代の課題についての叙述や、みずから課題を設定し取り組むための例示をすることで、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるように配慮した（第3号）。	p. 230～234
<現代的な諸課題の形成と展望>		p. 235～236

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- *地図・グラフ類の作成においては、色覚の個人差を問わず、多くの生徒に見やすいようにカラーユニバーサルデザインに配慮し、読み取りやすい表現方法での作図を心掛けた。
- *本文やキャプションで使った文字のフォントについては、文字のかたちがわかりやすく、読み間違いがおこりにくいユニバーサルデザインに対応した「UD 書体」を採用した。
- *インターネット上に教科書ポータルサイトを設け、用語の解説、穴埋め形式で用語を確認する問題、様々な地域の年表を比較して参照できる年表、文字資料や動画などの一覧を参照できるようにして、より深い学びにつなげられるようにした。
- *学習上の便宜を考慮して、図版に番号を付し、関連する本文にも図版番号を示した。
- *学習指導要領の趣旨に従いつつ、高等学校における学習に配慮して、巻頭資料「諸地域世界の形成」で前近代を扱うなど一部独自の構成を加えて作成した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-111	高等学校	地理歴史科	歴史総合	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
81 山川	歴総 081-901	歴史総合 近代から現代へ 改訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

特色① 中学校社会科との連携

- * 中学校社会科との連携をはかるため、また、歴史総合が近代以降を主な学習対象とする種目であることをふまえ、「巻頭資料」として「諸地域世界の形成」を設け、東アジア、南アジア・東南アジア、西アジア、ヨーロッパに分けて、近代以前の諸地域世界の動向や、諸地域世界の風土について示した。
- * 高校生の発達段階に配慮し、叙述が難解になりすぎないように配慮した。
- * 高校生にとって理解しにくいと思われる語句（概念用語や公民関係用語を含む）や、より詳細な解説が必要であると考えられる箇所には、注を付した。
- * 学習指導要領の趣旨に従いつつ、生徒の理解のしやすさに配慮して、時系列的な構成を心掛けた。また関連する叙述には参照ページを付すことで、時代や地域を通観した学習ができるように心掛けた。

特色② 深い学びのための工夫

- * 「近代化への問い」「国際秩序の変化や大衆化への問い」「グローバル化への問い」「近代化と現代的な諸課題」「国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題」「現代的な諸課題の形成と展望」では、生徒自身が主体的に学習に取り組めるよう、資料を選択した。
- * 学習時の手がかりとして、各節の導入に節全体にわたる「問い」を配置して、各節の学習の目的を明確にした。また、節の途中や図版にも適宜、「Q（問い）」を配置し、対話的な活動を促すように留意した。
- * インターネット上に教科書ポータルサイトを設け、動画や資料などを参照して、より深い学びにつなげられるようにした。また、重要資料のいくつかについては、より詳しい読み取りができるよう、参照先で教科書に掲載したものよりも多くの分量、もしくは資料の全文を閲覧することができるようにした。
- * 各部の冒頭には扉を配置し、部の特徴が簡潔に理解できるように心掛けた。

特色③ 地理的・世界的視野の重視

- *内容の全体にわたって、国際環境や地理的条件などに関連付けて叙述するとともに、地図や年表などの諸資料も適宜掲載した。
- *地域別の配列を工夫し、世界史分野の学習のあとに日本史分野の学習が行われるようにすることで、世界の歴史と日本の歴史の関連が捉えやすくなるよう心掛けた。
- *掲載している地図は、正確性を追求し、デジタル教科書等での拡大使用にも堪えうるように工夫した。
- *世界的視野を重視しつつも、「日本史探究」「世界史探究」の学習を見据え、日本史分野・世界史分野それぞれの叙述の比率が極端に片方に傾くことがないよう配慮した。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
歴史の扉 1 歴史と私たち 日本と洋菓子	A 歴史の扉 (1) 歴史と私たち	p. 12～13	1
歴史の扉 2 歴史の特質と資料 台湾における砂糖の生産	(2) 歴史の特質と資料	p. 14～16	1
第 I 部 近代化と私たち ＜近代化への問い＞ 1 交通と貿易／2 産業と人口／3 権利意識と政治参加や国民の義務／4 学校教育／5 労働と家族／6 移民	B 近代化と私たち (1) 近代化への問い	(p. 17～98) p. 18～23	2
第 1 章 結びつく世界 1 アジア諸地域の繁栄と日本 2 ヨーロッパ人の海外進出とヨーロッパにおける主権国家体制の形成	(2) 結びつく世界と日本の開国 (3) 国民国家と明治維新	p. 24～35	3
第 2 章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 1 アメリカ独立革命とフランス革命 2 ヨーロッパ経済の動向と産業革命 3 19 世紀前半のヨーロッパ 4 19 世紀後半のヨーロッパ 5 19 世紀のアメリカ大陸 6 西アジアの変容と南アジア・東南アジアの植民地化 7 中国の開港と日本の開国		p. 36～65	10
第 3 章 明治維新と日本の立憲体制 1 明治維新と諸改革 2 明治初期の対外関係 3 自由民権運動と立憲体制		p. 66～77	3

第4章 帝国主義の展開とアジア 1 条約改正と日清戦争 2 日本の産業革命と教育の普及 3 帝国主義と列強の展開 4 世界分割と列強の対立 5 日露戦争とその影響 <近代化と現代的な諸課題> 自由・制限／開発・保全		p. 78～96 p. 97～98	6 1
第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち <国際秩序の変化や大衆化への問い> 1 国際関係の緊密化／2 アメリカ合衆国とソ連の台頭／3 植民地の独立／4 大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化／5 生活様式の変化 第5章 第一次世界大戦と大衆社会 1 第一次世界大戦とロシア革命 2 国際平和と安全保障 3 アジア・アフリカ地域の民族運動 4 大衆消費社会と市民生活の変容 5 社会・労働運動の進展と大衆の政治参加 第6章 経済危機と第二次世界大戦 1 世界恐慌の発生と各国の対応 2 ファシズムの台頭 3 日本の恐慌と満洲事変 4 日中戦争と国内外の動き 5 第二次世界大戦と太平洋戦争 第7章 戦後の国際秩序と日本の改革 1 新たな国際秩序と冷戦の始まり 2 アジア諸地域の独立 3 占領下の日本と民主化 4 占領政策の転換と日本の独立 <国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題> 対立・協調／平等・格差／統合・分化	C 国際秩序の変化や大衆化と私たち (1) 国際秩序の変化や大衆化への問い (2) 第一次世界大戦と大衆社会 (3) 経済危機と第二次世界大戦 (4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	(p. 99～170) p. 100～104 p. 105～131 p. 132～151 p. 152～167 p. 168～170	2 8 6 5 1
第Ⅲ部 グローバル化と私たち <グローバル化への問い> 1 冷戦と国際関係／2 人と資本の移動／3 高度情報通信／4 食料と人口／5 資源・エネルギーと地球環境／6 感染	D グローバル化と私たち (1) グローバル化への問い	(p. 171～236) p. 172～178	2

症／7 多様な人々の共存			
第8章 冷戦と世界経済	(2) 冷戦と世界経済	p. 179～213	10
1 集団防衛体制と核開発	(3) 世界秩序の変容と日本		
2 米ソ両大国と平和共存			
3 西ヨーロッパの経済復興			
4 第三世界の連携と試練			
5 55年体制の成立			
6 日本の高度経済成長			
7 核戦争の恐怖から軍縮へ			
8 冷戦構造のゆらぎ			
9 世界経済の転換			
10 アジア諸地域の経済発展と市場開放			
第9章 グローバル化する世界		p. 214～229	5
1 冷戦の終結と国際情勢			
2 ソ連の崩壊と経済のグローバル化			
3 開発途上国の民主化と独裁政権の動揺			
4 地域紛争の激化			
5 国際社会のなかの日本			
第10章 現代の課題		p. 230～234	2
1 現代世界の諸課題			
2 現代日本の諸課題			
<現代的な諸課題の形成と展望>	(4) 現代的な諸課題の形成と展望	p. 235～236	2
		計	70